

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	無
教育学部	教授	中川 一彦		
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概	要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
問題解決学習による授業構成(小学校の算数の授業と同じ展開の授業)	平成29年4月1日～現在	学生が算数科の授業づくりのできる教員となるよう、大学の授業そのものを小学校の算数科の一般的な授業形態である「問題解決学習」にした。具体的な手立てとしては、まず、授業のテーマに迫る「問題場面」を設定し、その後「一人で考える場面」「少人数の他者と考える場面」「全体交流の場面」「学習を振り返る場面」の五つの場面で授業が展開するようにしている。		
小学校の算数の授業のイメージ化を図るための模擬授業の実践	平成29年4月1日～現在	算数教育の本質、算数の指導のあり方を学生が実際に身近に感じることができるよう、自身の19年間の小学校教員時代における実践を模擬授業として学生に向けて行った。子どもが興味をもつ導入の工夫のあり方をはじめ、子どもが楽しみながら理解を深める授業展開などについて解説をしながら取り入れ、学生が算数の授業のイメージをもつことができたようにした。		
授業の進行を図るプレゼンテーションの作成およびICT機器の活用	平成29年4月1日～現在	学生が視覚的に学習を進めることができるよう、授業用プレゼンテーションを作成し、それをもとにして授業を展開した。授業用プレゼンテーションには、授業内容に関する情報はもちろんのこと、教員の発問などもそのまま掲載し、それを見るだけで学生が主体的に学習を進めることができるようにした。		
授業内容を振り返る「感想カード」の導入	平成29年4月1日～現在	毎時間の授業において、学生が前時間の授業の感想を書く「感想カード」を用意し、振り返りをするようにするとともに、全受講生の感想を把握するようにした。そして、一人一人の学生がどのようなことを感じながら学習を進めているのかを把握することに努めた。学生の感想によってはコメントを書き込むなどして、学生の学びを支援した。		
授業時間外での学びを活性化する「家庭学習ノート」による復習	平成29年4月1日～現在	復習をどのようにすればいいかを学生がわかりやすくするために、授業時間外の学びを行うための「家庭学習ノート」を導入した。「学習したこと」「分かったこと」「思ったこと」の3段階構成で書く「家庭学習ノート」の書き方に従い、学生が復習しやすくなるようにした。		
授業後の板書及び授業用資料のWEB上での公開	令和2年4月1日～現在	WEB会議システムを用いた遠隔授業を実施することに伴い、画素数の問題から授業の板書の文字が見えにくくなることを改善するために、授業後の板書の写真を撮影してWEB上に掲載し、学生がノートに記録しやすくなるようにした。また、授業で用いる資料について、自身が作成している研究室ホームページ上に掲載し、学生が手元に資料を入手しやすくなるようにした。		
授業評価アンケート (大和大学教育学部)	平成29年4月～令和2年3月	大和大学における授業評価アンケートの結果によると、担当する科目の総合的なポイントは次の通りである。 【平成29年度】 ○「初等算数Ⅰ」3.84/4点172名受講 ○「初等算数Ⅱ」3.88/4点126名受講 ○「初等教科教育法(算数)Ⅰ」3.89/4点121名受講 ○「初等教科教育法(算数)Ⅱ」3.67/4点115名受講 【平成30年度】 ○「初等算数Ⅰ」3.79 /4点177名受講 ○「初等算数Ⅱ」3.96 /4点153名受講 ○「初等教科教育法(算数)Ⅰ」3.83/4点149名受講 ○「初等教科教育法(算数)Ⅱ」3.57/4点124名受講 【令和元年度】 ○「初等算数Ⅰ」3.86/4点197名受講 ○「初等算数Ⅱ」3.85/4点175名受講 ○「初等教科教育法(算数)Ⅰ」3.83/4点176名受講 【令和2年度】 ○「初等算数Ⅰ」3.88/4点192名受講 ○「初等算数Ⅱ」3.87/4点197名受講 ○「初等教科教育法(算数)Ⅰ」3.87/4点191名受講		
2 作成した教科書、教材、参考書				
授業プレゼンテーション	平成29年4月～	大和大学教育学部教育学科の専門科目〈初等算数Ⅰ・Ⅱ〉〈初等教科教育法(算数)〉において 各15回分のプレゼンテーションを作成し、授業の進行を図ってきた。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
大阪市立加賀屋東小学校校内研修会指導助言講師	平成30年 6月 令和元年 6月	大阪市立加賀屋東小学校の校内研修会において、算数科の授業について指導助言を行った。算数の授業づくりにおいて、子どもの内面から「やってみよう」という気持ちを引き出すことの重要性や、教材・教具のあり方、これからの算数教育の方向性などについて助言を行った。		
甲賀市教職員全員研修会講演会講師	令和元年 8月	甲賀市教育委員会主催「甲賀市教職員全員研修会」において、甲賀市の小中学校の教職員の方々を対象に「授業と家庭の学びをつなぐ家庭学習ノートのすすめ」を演題として講演した。家庭学習の大切さや家庭学習ノートを継続することによる効果、家庭学習ノートの書き方についての講演をした。		

吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師	令和2年12月 令和3年 2月 令和3年 3月 令和3年11月 (2回) 令和4年 1月	吹田市立吹田第三小学校の校内研修会において、算数科の授業について指導助言を行った。算数の授業づくりにおいて、子どもの内面から「やってみよう」という気持ちを引き出すことの重要性や、教材・教具のあり方、これからの算数教育の方向性などについて助言を行った。
阪南市立上荘小学校校内研修会出前講座講師	令和3年 7月	阪南市立上荘小学校の校内研修会において、算数科の授業について指導助言を行った。算数の授業づくりにおいて、子どもの内面から「やってみよう」という気持ちを引き出すことの重要性や、教材・教具のあり方、これからの算数教育の方向性などについて助言を行った。
泉南市立一丘小学校校内研修会出前講座講師	令和3年 8月	泉南市立一丘小学校の校内研修会において、算数科の授業について指導助言を行った。算数の授業づくりにおいて、子どもの内面から「やってみよう」という気持ちを引き出すことの重要性や、教材・教具のあり方、これからの算数教育の方向性などについて助言を行った。また、「授業と家庭の学びをつなぐ家庭学習ノートのすすめ」を演題として講演した。家庭学習の大切さや家庭学習ノートについて効果、家庭学習ノートの書き方についての講演をした。
寝屋川市令和4年度研修会講師	令和4年 5月	寝屋川市教育委員会主催「寝屋川市令和4年度研修会」において、寝屋川市の小中学校の教職員の方々に「授業と家庭の学びをつなぐ家庭学習ノートのすすめ」を演題として講演した。家庭学習の大切さや家庭学習ノートについて効果、家庭学習ノートの書き方についての講演をした。
寝屋川市立中木田小学校校内研修会講師	令和4年 7月	寝屋川市立中木田小学校の校内研修会において、「授業と家庭の学びをつなぐ家庭学習ノートのすすめ」を演題として講演した。家庭学習の大切さや家庭学習ノートについて効果、家庭学習ノートの書き方についての講演をした。
橋本市立境原小学校校内研修会講師	令和4年 7月 令和5年 1月	橋本市立境原小学校の校内研修会において、算数科の授業について指導助言を行った。算数の授業づくりにおいて、子どもの内面から「やってみよう」という気持ちを引き出すことの重要性や、教材・教具のあり方、これからの算数教育の方向性などについて助言を行った。

4 その他教育活動上特記すべき事項

II 研究活動

著書（単著）

書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月

著書（共著・分担執筆）

題目／書名	著者／編者	初（始）頁～終頁	発行所	発行地	発行年月

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
「算数の授業における子どもの活動時間についての調査研究」	中川 一彦	大和大学教育学部研究紀要	第6巻	79頁～88頁	令和2年3月

総説

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
「日常場面の比の表記についての研究」	中川 一彦	大和大学教育学部研究紀要	第5巻	31頁～36頁	平成31年3月

その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

区分	題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
実践報告	「リレーチームをつくろう」【1年・資料の散らばりと代表値】	単 中川 一彦	明治図書『教育科学/数学教育』	No. 733	106頁～109頁	平成30年11月
実践報告	「数学的な表現をつなぐよさに感じる学習」	単 中川 一彦	新興出版啓林館『啓く通信』	No. 03	6頁～7頁	令和2年1月
実践報告	「家庭学習のしかけ」	単 中川 一彦	明治図書『教育科学/数学教育』	No. 767	80頁～83頁	令和3年9月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内（課題研究）	平成30年8月	第77回日本教育学会	「作図に用いる道具に対する教員の認識についての研究」	宮城教育大学	中川 一彦

科学研究費等の取得状況

科学研究費／その他の助成金／外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）

特許

特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国

Ⅲ 加入学会および社会における活動	
期 間	内 容
加入学会	
平成29年4月～	日本数学教育学会会員
平成29年4月～	数学教育学会会員
平成29年4月～	日本教育学会会員
平成29年4月～	日本教師教育学会会員
社会的活動	
平成30年6月27日	大阪市立加賀屋東小学校校内研修会指導助言講師
令和1年6月13日	大阪市立加賀屋東小学校校内研修会指導助言講師
令和2年11月27日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和2年12月8日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和3年2月22日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和3年3月1日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和3年3月5日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和3年7月30日	阪南市立上荘小学校校内研修会講師
令和3年8月6日	泉南市立一丘小学校校内研修会講師
令和3年11月5日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和3年11月26日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和4年1月28日	吹田市立吹田第三小学校校内研修会指導助言講師
令和4年5月16日	寝屋川市令和4年度研修会講師
令和4年7月5日	寝屋川市立中木田小学校校内研修会講師
令和4年7月29日	橋本市立境原小学校校内研修会講師
令和5年1月24日	橋本市立境原小学校校内研修会指導助言講師
Ⅳ 管理活動	
期 間	内 容
委員会活動	
令和3年4月～	教育学部 自己点検・評価委員会
令和3年4月～	教育学部 人事審査会議
令和3年4月～	教育学部 人事委員会
令和3年4月～	教育学部 入試委員会
令和3年4月～	教育学部 教務委員会
令和5年4月～	教育学部 教育学科長
令和5年4月～	教育学部 予算事委員会
令和5年4月～	教育学部 カリキュラム委員会
令和5年4月～	全学 大学評議会
令和5年4月～	全学 自己点検・評価委員会
令和5年4月～	全学 危機管理委員会
令和5年4月～	全学 IR委員会
令和5年4月～	全学 入試委員会
令和5年4月～	全学 施設検討委員会
特別プロジェクト活動	

V クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	選択 ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	選択	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	選択	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	選択	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間	大会名	成績	場所	
VI 賞罰 (職務に関する賞罰)				
年 月	受賞等機関名	内 容	備 考	